

日光ゆかりの作品に ふれてみませんか！

小杉放菴(日本画・洋画)、五百城文哉(洋画)、清水比庵(歌・書・画)、入江観(洋画)、手塚登久夫(彫刻)、柄澤齊(木版画)、これらはいずれも日光にゆかりのある作家たちであり、このほかにも多くの日光出身者または日光に活動拠点を置く作家たちが活躍しています。市では合併を機に、日光にゆかりのある作家たちを、広く皆さんに紹介する取り組みを進めています。

柄澤齊氏の木口木版画作品「肖像Ⅳ アルチュール・ランボー」



7月から県立美術館において、日光市出身の作家である柄澤齊氏の初めての本格的な回顧展である「柄澤齊展・宙空の輪舞」版画、オブジェ、水彩、本 1997-1-2006^{※1}が開催されます。

日本の木口木版画の第一人者である柄澤氏の版画は、黒の中に細密な線を刻み、独自の小宇宙を創り出しています。1980年代には、古今東西の芸術家の肖像をモチーフにした「肖像」シリーズや「死と変容」シリーズを製作し、木口木版画の表現の可能性を深く探求すると同時に、本をモチーフにしたボックス・オブジェや水彩のミニチュールも制作しました。1990年代末からは、和紙を

張ったパネルに墨で描く大型の作品にも着手しています。その一方でエッセイなども執筆しており、ミステリー小説「ロンド」では下野文学大賞を受賞するなど、文学的才能もいかななく発揮しています。

今回の企画展では、木口木版画の初期から現在に至るまでほぼすべての作品を展示します。また、オブジェや水彩・素描の細密画、墨で描いた大作など、多様な作品約20点と装丁本などの資料も展示し、柄澤氏の多面的な活動を余すところなく紹介します。

また、会期中8月の土曜・日曜日には、柄澤氏本人による公開制作が行われます。版画制作の現場

にじかに触れ、作品が生まれる瞬間に立ち会つ、またとない機会です。皆さんも、第一線で活躍する日光出身の作家の作品に触れてみてはいかがでしょうか。

くわしくは 生涯学習課 文化係
☎(21) 2182

※1 木口木版画

…輪切りにした木の断面(木口面)の中央部を版の材料に使う木版画のこと。木口面は目が詰まって非常に堅いので、精密で繊細な線刻ができることが特色。

※2 ミニアチュール
…小型絵画・細密画のこと

柄澤齊展・宙空の輪舞

版画、オブジェ、水彩、本

1971・2006

とき 7月16日(日)～9月3日(日)

午前9時30分～午後5時

※入館は午後4時30分まで

※月曜日休館、ただし7月17日(月)は開館、7月18日(火)は休館

ところ 県立美術館(宇都宮市桜4-2-7)

料金 一般 800(700)円

大学・高校生 500(400)円

中学生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金

主催 日光市・県立美術館・日本経済新聞社

くわしくは

県立美術館

☎028(21)3566

ホームページアドレス

<http://www.art.pref.tochigi.jp/jp/index.html>

柄澤齊プロフィール

- 昭和25年 日光に生まれる。
- 昭和45年 東京の画廊で日和崎尊夫氏の木口木版画と出会う。
- 昭和46年 創形美術学校に入学して日和崎氏に師事し、木口木版画家を志す。
- 昭和48年 日本版画協会展において版画協会新人賞を受賞。

